

* 麻布時代の東京天文台の写真発見

東京天文台は明治21年(1888年)、明治政府の海軍省観象台があった麻布区飯倉の地に開設された。東京帝国大学 学術大観の「東京天台」の編には、「明治21年6月2日、海軍省水路部観象台における天文観測及び内務省地理局観測課天象部の天体観測および編暦事業を本学天文台に合併して麻布区飯倉町の旧海軍観象台の地所(2500坪)に東京天文台を設け之を理科大学附属となした」とある。このたび、麻布区教育委員会発行の冊子、「増補 写された港区 三(麻布地区編)～麻布・六本木～」を入手し、ページをめくっていると麻布時代の東京天文台の写真が何枚か掲載されていた。東京天文台の木製と思われる門標が写っている写真(写真1)は初めて見るものである。ここに写真の出所を明らかにして転載させていただく。

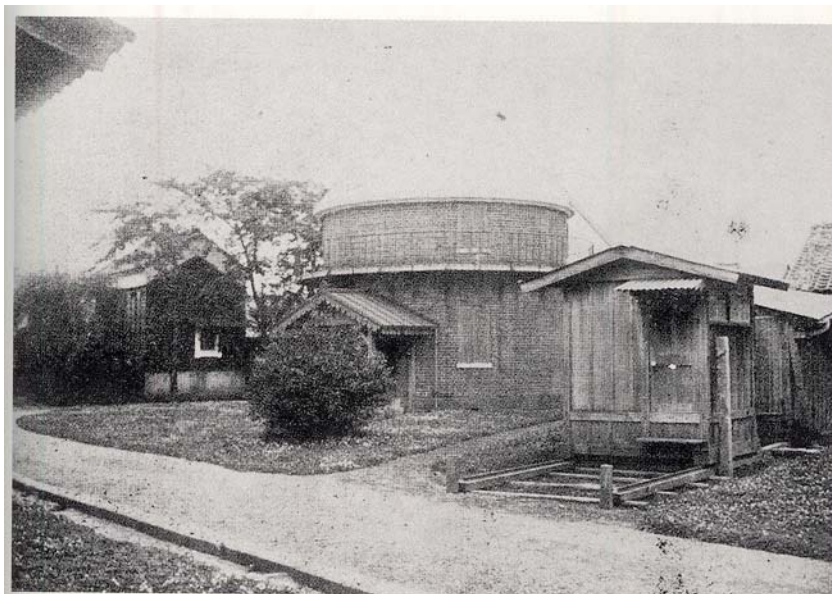


31 東京天文台 明治40年(東京写真帖)

写真1 麻布時代の東京天文台の門

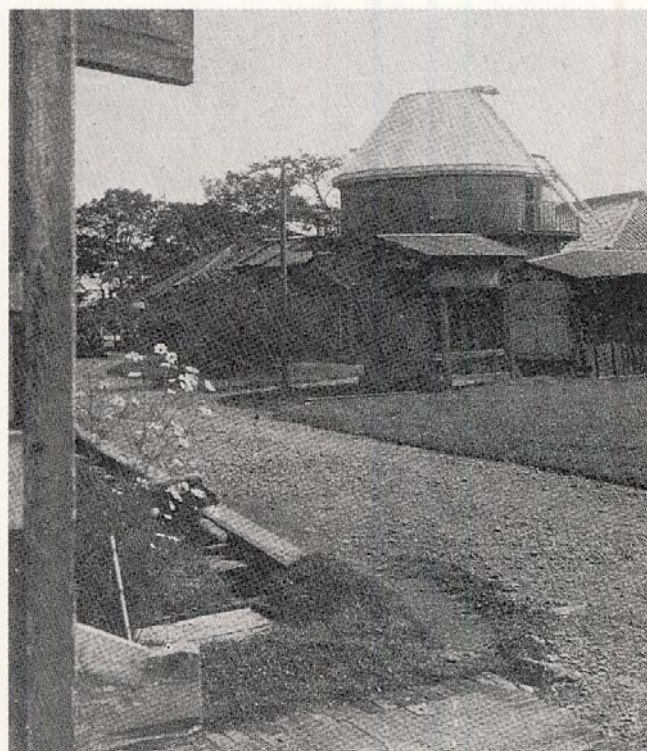
アーカイブ室としては、この門に掲げられた門標が発見されれば、ぜひにもアーカイブしたいものと思っている。この麻布の東京天文台は市街地の発展で空が明るくなってきたこと、敷地が狭隘で本格的な子午環を展開できないなどのため、明治42年には北多摩郡三鷹村に移転するため広大な7万坪余の敷地を購入した。その後寄付があったり、内務省からの管理換えなどがあり最終的には10万坪に及ぶ敷地を得た。移転作業は大正3年頃から始められたが、移転作業が遅々としていた大正12年9月1日は関東大震災のため、麻布の東京天文台は壊滅的な被害を受けた。それを期に一気に三鷹村に移転が進んだが、麻布の

東京天文台の地は、東京大学天文学教室として昭和 35 年頃まで使用された。同冊子に麻布時代の観測用ドームの写真が何点か載っているで紹介させていただく（写真 2～4）。



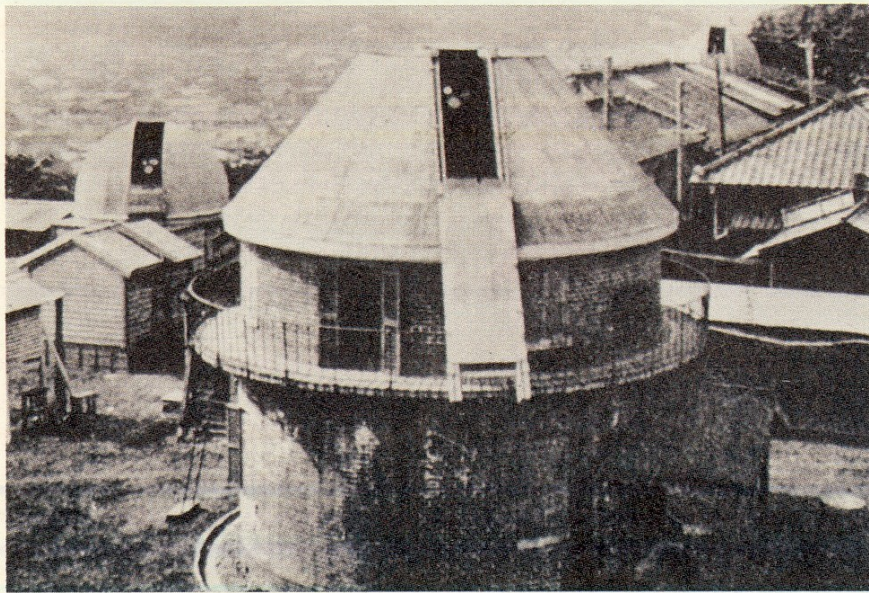
32 同上 明治40年（東京写真帖）

写真 2 中央に台形の屋根をしたドーム、右にスライディンググループが見える



33 麻布天文台 昭和5年（日本地理風俗大系）

写真 3 写真 2 の別の角度からであろう



▲麻布時代の「東京天文台」。観測ドームの丸い屋根は木製でした。

写真4 この写真はおなじみのものである
元東京天文台職員井上四郎の遺品の中の写真を1点紹介しておく（写真5）。



写真5 右端の人物が井上四郎氏